

【学術変革領域研究（A）】

マテリアマインド：物心共創人類史学の構築

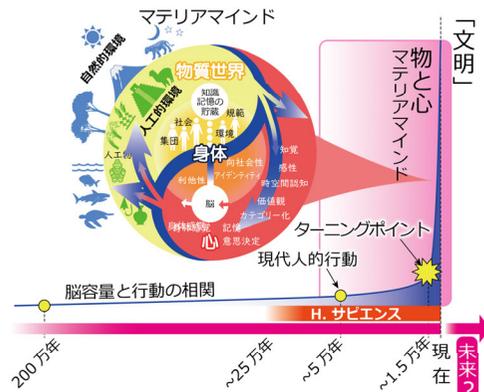
	研究代表者	岡山大学・文明動態学研究所・教授
	研究課題情報	松本 直子（まつもと なおこ） 研究者番号：30314660 課題番号：24A102 研究期間：2024年度～2028年度 キーワード：マテリアマインド、人類史学、ニッチ構築（環境構築）、文明動態、認知考古学

なぜこの研究を行おうと思ったのか（研究の背景・目的）

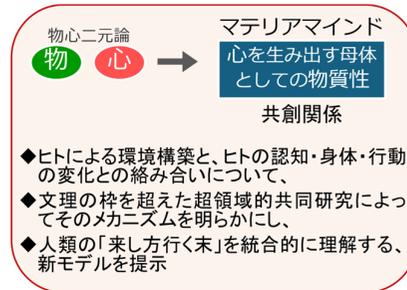
●研究の全体像

大規模・複雑な社会組織、高度な科学技術、世界宗教を含む様々な宗教的信念など、ヒトは他の動物行動とは大きく異なる特異的な文明を形成し、その変化は質量ともに拡大しつつある。このようなヒト特有の進化はなぜ起こったのか、我々はどうやって現在の状況に至ったのかを知るには、文明がどのようにして起きたかを明らかにする必要がある。つまり、ホモサピエンス登場後、長きにわたる遊動的狩猟採集生活から、どのようにして定住化、動植物のドメステイケーション（家畜化・栽培化）、土器をはじめとする多様な物質文化の生産が始まり、人口増加と集住、社会の複合化が進み、大規模モニュメントの構築や儀礼・宗教の発達が起こったのかを理解する必要があるのである。そのためには、**心と物質**が分かちがたく結びついていることを正しくとらえ、モノ（物質文化）が果たした役割、つまりヒトがモノを創りモノがヒトを創るといふヒトに固有の「**物心共創**」のプロセスとメカニズムを明らかにしなければならない。

本研究領域は、**ヒトによる環境構築と、ヒトの認知・身体・行動の変化との絡み合いについて、文理の枠を超えた超領域的共同研究によってそのメカニズムを明らかにし、人類の過去と未来を統合的に理解する新モデルの提示を目指す。**



現代人的心 = マテリアマインド（物と心の共創関係）



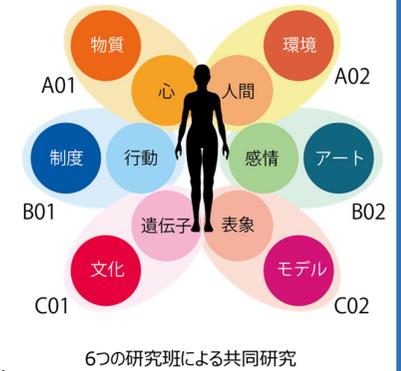
- ◆ヒトによる環境構築と、ヒトの認知・身体・行動の変化との絡み合いについて、
- ◆文理の枠を超えた超領域的共同研究によってそのメカニズムを明らかにし、
- ◆人類の「来し方行く末」を統合的に理解する、新モデルを提示

●「出ユーラシア」から「マテリアマインド」へ

本研究領域の前に取り組んだ新学術領域研究「出ユーラシア」では、ユーラシア大陸を出て、日本列島、アメリカ大陸、オセアニアに進出した集団によって相互に独立して展開した文明について比較研究と分野を超えた理論研究を行い、ヒトに特異的なニッチ（生態的地位）構築メカニズムを探索する統合的人類史学の枠組みを構築した。本研究領域は、この成果の先端的な部分をさらに発展させて、ヒトが作り出すモノと心が一体となって展開するメカニズムを明らかにする。

●6つの研究班による物心共創人類史学の構築

- A01 (物質と心班)**
数万年にわたり、心・身体・認知システムがどう変化したのか
- A02 (人間と環境班)**
自然の営力と人間の営為の絡み合い、環境と心の共創関係
- B01 (行動と制度班)**
ヒトの認知能力の限界と可能性、認知能力の一大転換メカニズム
- B02 (アートと感情班)**
認知科学と人類史研究の融合、行動・脳・文化の統合的理解
- C01 (遺伝子と文化班)**
「ヒトらしさ」の進化的生物学的基盤、新しい進化の因果構造のモデル化
- C02 (表象とモデル班)**
3Dモデルの体系的取得と定量的分析、マテリアマインド形成のモデル化



6つの研究班による共同研究

この研究によって何をどこまで明らかにしようとしているのか

●物質文化がいかに人間の身体・脳・心を作ってきたか

人類史においてモノ（物質文化）が果たした役割に注目し、「物心共創」のプロセスとメカニズムを明らかにする。これにより、人類進化の本質にも迫るものである。

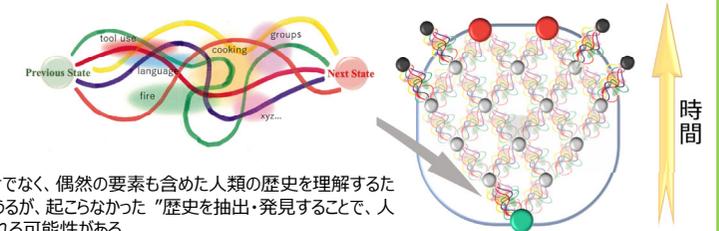


●人文知の理系分野への浸透（学知構造の変革）

現在私たちが直面している環境破壊、戦争、貧困、ジェンダー格差などの解決は、科学技術の進歩だけでは達成できない。技術開発に携わる研究者にも人文社会科学的な「知」の浸透が必要である。そのために、この文理融合研究における新概念「マテリアマインド」が貢献する。

●新しい進化モデルの提唱

遺伝子から神経生理・認知・行動・社会までを境目なく結合した新しい文化進化モデルを提唱する。



要素間の複雑な関係だけでなく、偶然的要素も含めた人類の歴史を理解するための新しいモデル。“起こりうるが、起こらなかった”歴史を抽出・発見することで、人類史への深い洞察が得られる可能性がある。